

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

2017年 9 月 25 日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 23-003
 名称 NPO 法人谷田武西の原っぱと森の会
 所在地 印西市木刈 3-9-1

代表者職氏名 理事長 矢野眞理 印
 連絡先 白井市大山口 2-4-6-503
 電話：080-5087-7235

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	武西の里山 保全と調査事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合 はテーマ名のみ記入)	<p>2016年度に千葉県から印西市に譲渡された武西地区の里山は、都市に隣接しているにもかかわらず、生物多様性に富んだ貴重な自然環境を残している希少な場所です。ここには今も、絶滅危惧種をはじめとする希少な動植物が多様性をもって生息しています。</p> <p>一方、里山の環境は人の生活に密着して維持されてきたため、燃料や芝草を採取する必要がなくなった今も、適切に人の手を入れなければたちまち荒廃し、生物多様性もたらしている生態系の均衡はまたたくまに崩れてしまいます。</p> <p>また、里山は人の目がつきにくいということで、ごみの不法投棄、違法に侵入し使用する行為、絶滅危惧種を盗掘する行為などが後をたちません。</p> <p>印西市所有地となり、今後どのような里山にしていくか、市としてのビジョンができていくものと思われませんが、その間も、劣化や荒廃に至らぬような保全事業を必要としています。</p>
提案理由	<p>里山の保全作業を行うにあたっては、いつ、どの場所を、どんな頻度で行うかを判断し計画をたてます。また、その計画が適切であったかどうかを、モニタリングや環境調査によって評価し確認をしていく必要があります。</p> <p>○保全事業の考え方: <u>保全作業と調査・モニタリングは一体となっている</u></p> <p>原生のものではない二次林、二次草原などの生物多様な環境は人の手の保全を必要としますが、その反面、草刈りや湿地の整備などで人の手はいることが適度な攪乱にならず、過度の攪乱になることもあり得るため、行われる保全作業が的確であるかどうかを、環境を調査することで判断します。</p>

	<p>調査の結果、劣化が認められるようであれば、次の保全計画を見直して実施することになります。</p> <p>保全事業のなかで、保全作業は、実行のパートであり、環境調査・モニタリングはチェックする機能をもつパートです。</p> <p><u>○環境調査とモニタリングの違い</u></p> <p>環境調査としての昆虫、植物などは少なくとも1年のうち、短期間に変化が認められるものであるため、つぶさに観察し記録する。保全作業の結果を細かく見ていくために行うものです。</p> <p>モニタリングは定点において、その環境を指標する生き物を選択し、長い期間をとおして調査する。指標種の推移を見ていくことによって、環境の変化の様子を長いスパンで把握することができます。</p> <p>当会が行っているモニタリングは北総里山会議による武西の整備計画提案書に準じており、北総里山会議の自然環境部会として実施した2010年より継続して現在まで行っております。</p> <p>これら三つの事業を一体として行っていくことで、環境の劣化を防ぎ、再生をはかることができます。</p> <p>今、自然環境を次の世代へ繋げていくための、無理のない社会的な仕組みを作ることが必須です。</p> <p>行政と市民との協働が、丁寧な事業展開と経験を生み出し、よりよい里山の環境づくりを可能にするものと考えます。</p>
<p>提案内容 (予算の概算も記入)</p>	<p>1.保全事業</p> <p>1)草地の草刈り</p> <p>2)湿地の手入れ</p> <p>3)ゴミ拾い</p> <p>2. 環境調査事業</p> <p>* 東邦大学と協力</p> <p>1)植生 草地・湿地</p> <p>2)生きもの 両生類・昆虫類・魚類</p> <p>3)水質調査</p>

<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>当会は印西市及び白井市の環境団体の連合体である北総里山クラブの谷田武西プロジェクトチームが前身となります。2010年度にNPO 法人となりましたが、プロジェクトチームであった時代、2008 年から対象地が印西市と白井市に無償譲渡される前年度まで、千葉県旧企業庁に立ち入り申請を行い、荒廃による環境の劣化を防ぎ、自然環境を維持する保全活動と環境調査やモニタリングを展開してきました。この保全活動には草刈りなどにとどまらず、百トン単位のごみの撤去なども含まれています。</p> <p>武西の里山の一部が印西市の所有地となった今、当会が経験によって得た保全の方法と、毎年積み上げてきた調査による具体的な環境の把握の実績は、今後市が当地を管理保全していく上で、参考になるのではないかと考えております。</p> <p>また、北総里山クラブ企画によるごみの撤去作業、2013 年の印西市と当会の企画提案型協働事業での里山の不法投棄ごみの撤去事業、2016 年の印西市・企業庁主催の里山の大掃除事業により、湿地に長年放置されたごみの、掘りあげ撤去がようやく終了し、湿地のごみの後には水辺が生まれました。今、葦原の変わりゆく景観は、また新たに生きものたちの息吹を感じさせてくれています。</p> <p>2017 年度は環境保全課に毎月立ち入り願いを提出し、相談、協力しながら活動を続けておりますが、市との協働とすることによって、より緻密な里山の保全活動を展開することができるように期待しております。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>①環境の劣化を防ぎ、保護すべき対象を守ることができる ②環境の荒廃を防ぎ、里山の景観を良好に保つことができる ③環境の調査により、実態を把握しより良い保全方法の構築に向かうことができる</p> <p>今後の展望</p> <p>①提案理由の欄で説明したように、本来、生物が多様な里山の保全事業は保全作業・環境調査・モニタリングを一つの流れとして進めたいところだが、今回の協議では時間切れとなり、当提案型協働事業からは外すこととなった。今後の展開ではモニタリングも含めた事業を実施したいと考える。</p> <p>②無理なく継続できるような保全の方法・仕組みをつくる ③人と生きものが共生できるようなグリーンインフラを構築する ④行政と市民による自然環境の維持と再生のモデルケースとなる</p>

	提案者	市民	市
協働のメリット <small>(各立場にとっての効果を簡潔に)</small>	①市と協働することで団体の事業をより公のものとするができる ②市と協働することによってフィールドの将来について、より深く協力することができる ③会の特性を生かすことができる	①不法立ち入りや不法なゴミ投棄に対する近隣住民の、心配や不安を取り除くことができる ②生物多様な自然環境を享受することができる ③環境教育や大学等研究機関の研究に役立つ	①自然環境の維持と再生を行うことができる ②行政・市民・研究機関との協力による、市の生物多様性保全のモデルケースとして育てることができる
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	市役所にて直接の打合せ・メール・電話		
事業の周知や評価の方法 <small>(具体的な目標値など)</small>	事業の周知:市の広報・チラシ・市の催しなどでの展示・市民活動支援センターを通じた発信・ミニコミ紙・ホームページ 評価:作業前後の写真、事業の記録、環境調査・モニタリングによる結果 収集したごみの量		
備考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 1,194,610 円

市から団体への委託費 （金 300,000 円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額	人件費、報償費など	300,000
その他収入		0
提案者負担分	機材レンタル代*1、機材購入費*2、混合ガソリン代*3、保険料*4、消耗品費*5	181,360
無償労働力等換算金額	無償労働力 565,250 円、無償機材 148,000 円	(713,250)
合 計（無償分を含めない）		481,360
無償分を含めた合計額		(1,194,610)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
人件費	植物調査 3人×3時間×17日=153時間 昆虫調査 2人×3時間×9日=54時間 水辺の生きもの調査 8人×3時間×1日=24時間 水質調査 3人×3時間×2日=18時間 調査報告書作成 4人×2時間×2日=16時間 合計 265時間×850円=225,250円	225,250
機材レンタル代	刈払機など機材運搬用レンタカー代 5,400円×12日(講習会2日含む)=64,800円*1	64,800
交通費	刈払機講習会講師の交通費 2,000円	2,000
機材購入費	コンパクトpHメータ B-712 堀場製作所 LAQUAtwin 24,948円*2 コンパクト電気伝導率計 B-771 25,812円*2 ルーペ 2,000円×5個=10,000円*2	60,760
燃料費	草刈機用ガソリン 5ℓ×7日(講習会1日含む)+2ℓ×4日(小型だけ使用)=43ℓ。120円×43ℓ=5,160円 刈払機用混合ガソリン、草刈り 2ℓ×10日+講習会4ℓ=24ℓ。350円×24ℓ=8,400円*3	13,560

報償費	刈払機講習会講師謝礼 15,000 円 植物調査講師謝礼 5,000 円×4人=20,000 円 昆虫調査講師謝礼 5,000 円×2人=10,000 円	45,000
保険料	ボランティア保険料 30,100 円×4	30,100
消耗品費	川の水調査セット TZ-RW、パックテスト ZAK-COD など 9,390 円 鎌 1,500 円×2個=3,000 円 泥すくい 1,500 円×2個=3,000 円 オイル、プラグなど 600 円×2個=1,200 円 刈払機替刃 2,200 円×4個=8,800 円×5 熊手 300 円×5個=1,500 円×5 軍手、ブルーシートなど 2,000 円×5 用紙 5,000 円×5	33,890
印刷費	環境調査報告書の印刷用インク代 6,000 円	6,000
提案者が負担する 無償労働力	草刈り 11人×3時間×10日=330時間 水辺の保全 5人×3時間×4日=60時間 ゴミ拾い 10人×3時間×6日=180時間 メンテナンス 5人×2時間×2日=20時間 講習会 10人×3時間+15人×3時間=75時間 合計 665時間×850円=565,250円	(565,250)
提案者が負担する 無償機材等	小型草刈機2台、刈払機4台、チェーンソー1台など 8,000円×10日=80,000円 気象モニター測定器 1,000円×34日=34,000円 報告書作成用カメラ 1,000円×34日=34,000円	(148,000)
合 計 (無償分を含めない)		481,360
無償分を含めた合計額		(1,194,610)

(提案書 様式④)

年間事業スケジュール

*状況によって時期や内容は変化することがある

保全作業（草刈り）	10回(乗用使用6回、不使用4回)
（水辺の整備）	4回
ガラス片等ゴミ拾い	6回
植物調査	17回
昆虫調査	9回
水辺の生きもの調査	1回
水質検査	2回
安全講習会	2回(乗用草刈機、刈払機各1回)
メンテナンス作業	2回
報告書作成	2回

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
2018年4月	ボランティア保険契約	30,100	
	水辺・水路・開放水面の整備①	6,000	5名
	赤道のガラス片等の除去作業①	3,500	10名
	作業用機器の点検メンテナンス作業①	10,000	5名
	植物調査①	22,650	3名
	植物調査②	7,650	3名
	昆虫調査①	5,100	2名
2018年5月	水辺・水路・開放水面の整備②	0	5名
	赤道のガラス片等の除去作業②	0	10名
	安全講習会①乗用草刈機(乗用使用)	6,000	10名
	草刈り作業①(乗用使用)	6,700	11名
	植物調査③(講師依頼)	17,650	3名
	植物調査④	7,650	3名
	昆虫調査②(講師依頼)	10,100	2名
2018年6月	水辺・水路・開放水面の整備③	0	10名
	安全講習会②刈払機(斜面の刈方)	23,800	15名
	草刈り作業②	6,340	11名
	植物調査⑤	7,650	3名
	植物調査⑥	7,650	3名
	昆虫調査③(講師依頼)	10,100	2名

2018年7月	草刈り作業③(乗用使用)	6,700	11名
	草刈り作業④	6,340	11名
	植物調査⑦	7,650	3名
	植物調査⑧	7,650	3名
	昆虫調査④	5,100	2名
2018年8月	植物調査⑨	7,650	3名
	植物調査⑩	7,650	3名
	昆虫調査⑤	5,100	2名
2018年9月	草刈り作業⑤(乗用使用)	6,700	11名
	植物調査⑪(講師依頼)	17,650	3名
	植物調査⑫	7,650	3名
	昆虫調査⑥	5,100	2名
2018年10月	作業用機器の点検メンテナンス作業②	0	5名
	植物調査⑬	7,650	3名
	植物調査⑭	7,650	3名
	昆虫調査⑦	5,100	2名
2018年11月	水辺・水路・開放水面の整備④	0	5名
	植物調査⑮	7,650	3名
	植物調査⑯	7,650	3名
	昆虫調査⑧	5,100	2名
	水質検査①	67,800	3名
	水質検査②	7,650	3名
2018年12月	草刈り作業⑥(乗用使用)	6,700	11名
	赤道のガラス片等の除去③	0	10名
	水辺の生きもの調査	20,400	8名
2019年1月	赤道のガラス片等の除去④	0	10名
2019年2月	赤道のガラス片等の除去⑤	0	10名
	草刈り作業⑦(乗用使用)	6,700	11名
	草刈り作業⑧	6,340	11名
	報告書作成①	12,800	4名

2019年3月	赤道のガラス片等の除去⑥	0	10名
	草刈り作業⑨(乗用使用)	6,700	11名
	草刈り作業⑩	6,340	11名
	植物調査⑬	7,650	3名
	昆虫調査⑭	5,100	2名
	報告書作成⑮	6,800	4名
合 計		481,360	

企画提案型協働事業 武西の里山 保全と調査事業

平成29年度最終審査 委員会総合意見

- 1 今後の里山保全のあり方を考える上で意義のある事業として評価します。協働の新たなモデルケースとして、成果が広く活用されるよう期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

これからの飛躍に期待

- ・大変意義のある事業です。個人的には事業が許せば参加したいと思います。
- ・里山保全に関する公と民との適切な協働事業のモデルケースとして、成功させてください。期待しています。
- ・大規模作業のにない手がたくさんいる印西市はすばらしい。
- ・市として、行政の事業と、市民との共同事業（共助）の考え方の整理が今後必要か。
- ・困難はありそうだが一度、一緒にやることで見えてくることもあるだろう。

環境・モニタリング調査は成果の検証を

- ・環境調査及びモニタリングに関しては、成果を共有し活用できるような方向で考えて頂きたい。
- ・保全活動の成果が見えるよう、調査を進めて下さい。
- ・モニタリング調査は来年度までぜひ自主事業として取り組んでほしいです。

事業計画に課題

- ・市民へのメリットをもう少し明らかにして欲しいです。
- ・事業目的が希薄である。
- ・事業経費の積算根拠が不明瞭である。

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

29年9月25日

印西市長 板倉 正直 様

(登録者) 登録番号 28-004

名称 里地里山保全ねっと

所在地 印西市美瀬

代表者職氏名 代表 高橋 幸治 ⑩

連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	<p>印西市には谷津田など豊かな里山環境が多く残っているが、農家の高齢化や後継者不足、また生活様式の変化により耕作放棄地が増加し、谷津田など耕作の難しい田を含め里山の荒廃が進んでいる。この里山環境の悪化が結果としてイノシシが住みやすい環境となり、獣害の発生元となっている。このまま放置すればイノシシはさらに増え、農作物の被害の増加だけでなく、住宅地への出没も頻繁になり、住民が怪我をするような事態も想像される。</p> <p>さらに、里山の所有関係は複雑化し、境界もあいまいで、手入れの相談をしたくても所有者との連絡が困難な場合もある。</p>
提案理由	<p>イノシシ対策として「捕獲駆除」「防護柵」「生息環境の管理」を同時に実施することが効果的と言われている。印西市で行っている捕獲駆除と電気柵等の防護対策に加え、市民や所有者が共同で生息環境の管理を実施したい。耕作放棄地や隣接する里山等の整備保全活動を進め、イノシシが生息しづらい環境の整備を進めていく。そして、市民が谷津田をはじめ里山地域に親しみ、印西市の自然環境を満喫できるような農村環境づくりを行いたい。</p>
提案内容 (予算の概算も記入)	<p>いには野の美瀬地区の東側谷津田周辺にはイノシシが多く生息している。数年前からイノシシは生息していたが水田が境界線となっていた。しかし、ここ数年でほとんどが耕作放棄地となり大人の背丈より高い草が生い茂り荒れ放題となっている。しかも、そこに点在する放置竹林には、イノシシの好物のタケノコがあり絶好の餌場にもなっている。</p> <p>このような荒廃の進んだ土地で整備が必要な区域を瀬戸・吉高地区からリストアップし、所有者と調整をしながら順次整備を行っていく。</p> <p>活動予定としては、対象区域の範囲にもよるが、会員による整備活動は月4回、月の延人数20人程度を想定する。また、一般ボランティアを募集し体験型の整備活動も年2回程度行う予定である。</p>

	<p>必要経費は、環境整備用の刈払機やチェーンソーの機材関係費用、刈草や伐採竹の搬出処理費用、整備事業参加者の保険費用等であるが、事業の詳細を協議後調整させて頂きたい。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>私たちは、いには野地区の住民を中心とした団体で、昨年から角田地区で竹林の整備に取り組んでいる。森林組合や林業の事業体、市内外の環境系団体で活動実績を持つメンバーもあり、今後は活動の規模と幅を拡大しようとしている団体である。</p> <p>地域住民が中心となって不耕作地等整備等によるイノシシ対策を実施することにより、住民の環境意識の向上が期待できる。また対象農地・竹林の近隣の住民団体が実働することにより、市としては直接実施することが難しい個人所有地等の草刈りや周辺整備等の環境施策が行いやすくなると考えている。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>不耕作地の周辺が整備されることで、イノシシが棲みづらい環境が作られ、イノシシの増加を防ぐことができる。それに伴いイノシシによる農作物への被害や住民とイノシシの遭遇機会を減らすことができると考えている</p> <p>またイノシシが棲みづらい環境は周辺部の景観改善にも繋がる。</p> <p>今後は市民に谷津田等への親しみを持ってもらえるよう散策コースの整備や稲作体験のような環境教育も行っていきたい。</p> <p>更に整備の際に出る材の有効活用方法についても検討していきたい。</p>

協働事業計画書			
事業名	イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業		
事業の目的	住宅地に隣接した不耕作地に住み着いたイノシシ対策として不耕作地の整備を行い、住宅地との間に緩衝地帯を作る。 また、整備前後にイノシシの痕跡調査を行い、整備事業の効果検証を行う。		
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 生産基盤の整備や担い手の確保による持続的な農業の実現 (部署名) 農政課		
事業期間	平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日		
事業の内容 <small>詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して記すか、希望を記す)</small>	提案者	市	
	<ul style="list-style-type: none"> ・整備対象地区の所有者との折衝 ・不耕作地の草刈と刈草の処理 ・整備地域周辺の未利用竹林の間伐及び枯竹伐材処理 ・整備地域側道の草刈り整備 ・ボランティアの募集・指導 ・イノシシの痕跡調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・土地所有者との折衝補助(紹介・情報提供) ・事業遂行上のアドバイス 	
事業に要する経費 <small>※詳細については、様式③による</small>	14,000円	1,387,000円	
事業の運営体制 <small>(事業関係者、協力者、有資格者など)</small>	林業事業体、農業、環境系団体で環境整備の経験を積んだ指導的会員と、昨年より竹林整備を体験している会員で作業を行い、いには野地区の住民にも整備作業を体験してもらう。労働安全衛生特別教育修了者3名		
協働のメリット <small>(各立場にとっての効果を簡潔に)</small>	提案者	市民	市
	不耕作地の改善がイノシシ対策に利用でき、地域の安全にも貢献できる。また、団体の活動フィールドの拡大が期待できる。	不耕作地整備によるイノシシの生息地管理は、住民の安心安全の向上に繋がる。また、景観改善が自然に親しみやすい環境作りとなる。	市民と協働で不耕作地整備事業を行うことで、獣害対策と不耕作地の改善を同時に行う仕組み作りができる。
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	月1回の定期活動報告を行う。必要に応じて臨時ミーティングを行う。また、E-mail等でも情報交換を行う。		
事業の周知や評価の方法 <small>(具体的な目標値など)</small>	団体HPに活動予定と報告ページを設け活動状況を公表する。 美瀬自治会の回覧や掲示板で実施日やボランティア募集の通知を行う。 イノシシによる掘り返しやヌタ場の使用状況等の痕跡調査の比較を行う。		
備考	関係団体等		
	その他(添付書類等)		

(提案書 様式③)

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費 (無償分を含む) 金 2,667,000 円

市から団体への委託費 (金 1,387,000 円)

【歳入】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
市に負担を求めめる額	人件費(刈草処理、伐採竹処理) 925,000 円	1,387,000 円
	車両費、保険料、備品費、燃料費 462,000 円	
その他収入		
提案者負担分	サーバー・ドメイン利用料(年間)	14,000 円
無償労働力等換算金額	労働力 1,080,000 円、 機材 186,000 円	(1,266,000 円)
合計 (無償分を含めない)		1,401,000 円
無償分を含めた合計額		(2,667,000 円)

【歳出】

項目	積算根拠 (内容・数量・単価など)	見積り金額(円)
人件費	刈草処理:40L/坪×2,400 坪=96,000L 収集搬出作業(25 回)=142 時間	142,000 円
	リサイクル処理(25 回)=240 時間	240,000 円
	竹竿処理:5 本/坪×600 坪=3,000 収集搬出作業(21 回)=138 時間	138,000 円
	リサイクル処理(16 回)=135 時間	135,000 円
	竹枝葉粉碎処理(粉碎片竹林内散布): 450 円/坪×600 坪	270,000 円
車両費	軽トラック46回×2,000 円	92,000 円
保険料	傷害保険	70,000 円
備品費	替刃(刈払機/チェーンソー)、チェーンソーオイル、ノコギリ、集草バック、リヤカー、ヘルメット、フェイスガード、ゴーグル、燃料携行缶、熊手、他	261,500 円
燃料費	ガソリン、2 サイクルエンジンオイル(刈払機、チェーンソー、粉碎機用)	38,500 円
役務費	サーバー・ドメイン利用料 14,000 円/年	(14,000 円)
提案者が負担する 無償労働力	草刈り/伐採作業:48 回=984,000 円 HP 活動報告作成・更新:2 時間×48 回=96,000 円	(1,080,000 円)
提案者が負担する 無償機材等	刈払機 1,000 円/日×75 台、チェーンソー1,000 円/日×48 台、 粉碎機 3,000 円/日×21 台	(186,000 円)
合計 (無償分を含めない)		1,401,000 円
無償分を含めた 合計額		(2,667,000 円)

(様式④)

年間事業スケジュール

実施予定日	活 動 内 容	必要経費	参加人数
4月上旬	保険契約	70,000円	
4月～9月	耕作放棄地整備	600,000円	116名
	・整備地域確認と痕跡調査		2名
	・草刈整備(刈草収集搬出・リサイクル処理) 12回 444,000円		72名
	・整備済み地草刈り(刈草収集・リサイクル処理) 4回 44,000円		12名
	・通路、竹林回り草刈り(刈草収集・リサイクル処理)5回 55,000円		15名
5月下旬	・一般ボランティア参加の草刈整備(刈草収集・ リサイクル処理) 1回 57,000円		15名
10月～3月	竹林整備	731,000円	146名
	・整備地域確認と痕跡調査		2名
	・間伐、枯れ竹整備(伐採竹搬出・リサイクル処理、 枝葉粉碎処理) 15回 585,000円		90名
	・竹林下草刈り(枝葉粉碎処理) 3回 25,000円		13名
	・整備済み地草刈り(刈草収集・リサイクル処理) 3回 35,000円		13名
	・通路、竹林回り草刈り(収集・枝葉粉碎処理) 2回 30,000円		13名
	・一般ボランティア参加の竹林整備(伐採竹搬出・リサイク ル処理、枝葉粉碎処理) 1回 56,000円		15名
	合計	1,401,000円	

企画提案型協働事業

イノシシ等の獣害対策としての荒れた里山の整備事業 平成29年度最終審査 委員会総合意見

- 1 地域課題を的確に捉えた企画提案として評価します。先駆的なモデル構築に向け、成果指向の事業となるよう期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

効果の検証が不可欠

- ・テストケースとして、成果を出してください。
- ・今後の継続性についても検討をお願いします。
- ・大変な作業と思います。人員確保含め継続活動となるように（一過性でなしに）お願いします。
- ・効果はよくわからないがイノシシ被害は大きな問題でありとりあえず頑張ってください。
- ・担当課もトライアルであると認識されている。きちんとケーススタディとして活かして欲しい。
- ・里山の整備が獣害対策として効果があることをモニタリングし今後の獣害対策の一助となるようにして頂きたい。
- ・検証事例として評価できるよう取り組んでほしい。

URの関与が必要では

- ・UR用地についてはURにもかかわってもらう必要があるのでは。
- ・メインがURならURに対応してもらっては。
- ・今後所有のURにも検討、対応してもらえる事業にすることも考えて欲しい。

慎重な検討を望む

- ・除草剤を利用すればコストは下がると思われます。
- ・特定の場所を対象とすることに対市、住民の不満はでないのか。

(提案書 様式①-1)

協働の機会提案書(新規提案用)

平成29年 9月25日

印西市長 様

(登録者) 登録番号 29-002
 名称 印西防災研究会
 所在地 印西市武西学園台
 代表者職氏名 会長 向井地純一 ㊟
 連絡先

企画提案型協働事業を、下記のとおり提案します。

提案事業名	自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業
現状・課題 (指定テーマ型の場合はテーマ名のみ記入)	<p>今後30年以内に、震度6以上の大地震に見舞われる確率は、千葉県は80%と予測されている。また、地球温暖化の影響もあってか、洪水、土砂災害などの災害も多発している。防災対策は、「自助」「共助」「公助」の有機的の一体化が基本であり、「共助」の中核は自主防災組織である。</p> <p>印西市の自主防災組織の結成率は約50%であり、千葉県の58%、全国の77%から見ても、かなり低率となっている。また、自主防災組織の役員は、町内会等の役員が兼務するところが多く、毎年交代で、高齢化も目立つ。加えて、構成員の防災研修は不十分であり、また、自主防災組織間の情報交換・相互啓発もほとんど行われていない。</p> <p>今後、自主防災組織の活性化対策として、自主防災組織の構成員に対し、自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及が喫緊の課題となっている。</p>
提案理由	自主防災組織が活発に活動できるように、市防災課と協働で、自主防災組織の構成員に対し、自主防災組織運営の知識を啓蒙・普及する。
提案内容 (予算の概算も記入)	<p>平成29年3月に作成した6種類のわかりやすい防災マニュアルを活用し、印西市の自主防災組織の構成員に対し、研修会等を通じ、防災知識の啓蒙・普及に取り組む。</p> <p><6種類のわかりやすい防災マニュアル(初版)></p> <ul style="list-style-type: none"> ①自主防災組織運営の基本 ②自主防災組織活動マニュアル(中高層マンション編) ③防災訓練モデル ④防災倉庫備蓄品標準モデル ⑤印西市避難者行動要支援者マニュアル<要旨> ⑥避難所運営マニュアル

	<p><研修会対象></p> <p>①印西市自主防災組織 対象 90ヶ所 研修会等の必要性について、アンケート等により事前に意見聴取し、研修先を絞り込む。</p> <p>②印西市自主防災組織研修会(市防災課主催)、自治会連合会、社会福祉協議会、公民館主催の研修会など、市防災課の知恵を借り、マニュアルの啓蒙・普及に取り組む。</p> <p>必要経費は、約 20 万円程度見込んでいる。</p>
<p>貴団体の特性、協働 で実施するメリット (提案者が事業実施できる能 力や有利なアピールポイント)</p>	<p>印西防災研究会は、平成 27 年 4 月に市民アカデミー16 期生の有志 11 名で立ち上げ、昨年は、千葉銀行まちづくりファンドの助成を受け、6 種類のわかりやすい防災マニュアルを作成した。また、千葉県の災害対策コーディネーターの資格を 3 名取得した。</p> <p>現在、会員は 9 名であるが、これまでの防災学習、防災研修受講、防災訓練への参加等の準備を重ねてきており、市防災課と協働で、自主防災組織の構成員に対し、自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及に取り組むことができる。</p>
<p>事業実施により 得られる効果 (自由提案型は今後の 展望も記入)</p>	<p>市防災課との協働による自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及は、既自主防災組織構成員のレベルアップに繋がり、自主防災組織の活性化に役立つ。</p> <p>今後の展望として、初年度の取り組みを見て、</p> <p>①各自主防災組織を横断的につなぐ「印西市自主防災組織連合会」の新規立ち上げ</p> <p>②自主防災組織未設置の解消推進(印西市の中期計画では、自主防災組織の結成率を約 50%から 10%アップの 60%にするとしている。)</p> <p>に取り組む。</p>

協働事業計画書		
事業名	自主防災組織運営の知識の啓蒙・普及事業	
事業の目的	自主防災組織が活発に活動できるように、市防災課と協働で、自主防災組織の構成員に対し、印西防災研究会策定の「6種類のわかりやすい防災マニュアル」を利活用し、自主防災組織運営の知識を啓蒙・普及する。	
市の施策上の位置付け及び協働部署	(施策名) 多様化する災害に対応する、自助共助も含めた防災対策の強化 (部署名) 防災課	
事業期間	平成30年 4月 1日 ～ 平成31年 3月 31日	
事業の内容 詳細に役割分担別に記入 (役割分担を、できれば事前に市の担当に相談して 記すか、希望を記す)	提案者	市
	<p>①自主防災組織における自己診断を基本とした「防災マニュアル」の利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の「自己診断点検シート」の策定、全自主防災組織への送付、回収。送付に当たっては、「わかりやすい自主防災組織マニュアル」「自主防災組織運営の基本」合わせて送付。 ・回収した「自己診断点検シート」を分析・整理し、その結果のグルーピングを通じて対応策を検討。その内容については、再度、全自主防災組織へ送付。 ・対応策に従い、次の事を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> - 自主防災組織の現地訪問ヒアリング - 防災マニュアルの研修会、説明会の開催 - 研修会、説明会用のコンパクトマニュアルの策定 - 対応策についての外部有識者からの意見聴取 <p>②関係団体からの「防災マニュアル」の利活用についての意見聴取</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災課主催の自主防災組織研修会、社会福祉協議会、公民館等からの意見聴取 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自己診断点検シート」の策定、送付、回収・整理、対応策の検討についての指導 ・研修や説明会用の機材の貸与(例えば、プロジェクター) ・関係団体選定のアドバイス ・外部有識者の紹介

事業に要する 経 費 <small>※詳細については、様式③による</small>	18,000 円		221,900円	
事業の運営体制 <small>(事業関係者、協力者、有資格者など)</small>	印西防災研究会 9 名（うち、千葉県災害対策コーディネーター 3 名） なお、印西市在住の千葉県災害対策コーディネーター（14 名）に印西防災研究会への参加を勧誘する。			
協働のメリット <small>(各立場にとっての効果を簡潔に)</small>	提案者	市民	市	
	防災課との協働により、防災マニュアルの啓蒙・普及が円滑に進められる。	防災マニュアルの啓蒙・普及により、自主防災組織構成員のレベルアップに繋がり、自主防災組織の活性化に役立つ。	印西防災研究会との協働により、自主防災組織の活性化を効率的に図ることができる。	
対話方法 <small>市との協議や打ち合わせ方法</small>	毎月末に防災課へ事業の進捗状況及び実績を報告。また、メール等で随時情報交換を行う。			
事業の周知や評価の方法 <small>(具体的な目標値など)</small>	自主防災組織に取り組み状況等を連絡すると共に、市広報誌やHPで取り組み状況を周知する。			
備 考	関係団体等			
	その他（添付書類等）			

企画提案型協働事業経費内訳書

総事業費（無償分を含む） 金 779,900円市から団体への委託費 （金 221,900円）

【歳入】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
市に負担を求める額		221,900
その他収入		
提案者負担分	年会費 2,000/人 x 9人	18,000
無償労働力等換算金額	労働力 540,000円	(540,000)
合 計（無償分を含めない）		239,900
無償分を含めた合計額		(779,900)

【歳出】

項 目	積算根拠（内容・数量・単価など）	見積り金額(円)
報償費	外部有識者謝礼 2回 x 2人 x 7,500円/回	30,000
旅費・交通費	自主防災組織訪問(10回)、関係団体訪問(5回) 研修会・説明会(5回) 2,000円/月9人 x 20回	40,000
消耗品費	プリンターインク代 1,000円/本 x 3本 x 9人 用紙代 A4 500枚/束 x 30束、封筒代 400枚等	40,000
印刷製本費	コピー代 50円/製版 x 200製版、印刷費18,000枚、 コンパクトマニュアル製本代(90か所)	43,000
通信運搬費	郵便等郵送料（初回250円+返信120円+第2回 140円）x90か所、わかりやすいマニュアル380円x50 か所 電話料・FAX・ネット通信費 2,000円/月 x 5か月	74,900
使用料、賃貸料	1,000円/月2時間 x 12か月	12,000
提案者が負担する 無償労働力	1,000円/h x 60時間 x 9人(点検シート作成、分 析・整理、対応策策定、コンパクトマニュアル作成、研 修会・説明会対応等)	(540,000)
提案者が負担する 無償機材等		(0)
合 計（無償分を含めない）		239,900
無償分を含めた合計額		(779,900)

年間事業スケジュール

実施予定日	活動内容	必要経費	参加人数
30/4月～31/3月	・月次活動進捗検討会(12回)	12,000円	9名
30/4月上旬	・自主防災組織の「自己点検シート」の作成	26,000円 (90,000円)	9名
4月中旬	・「点検シート」を全自主防災組織へ送付。送付に当たっては、「自主防災組織運営の基本」「わかりやすい自主防災組織マニュアル」を合わせて送付(90か所)	22,500円	9名
5月末	・「点検シート」の回収(90か所)	10,800円	9名
6月中	・回収した「点検シート」の分析/整理	(90,000円)	9名
6月中	・分析/整理結果のグルーピングを通じて対応策を検討	25,000円 (90,000円)	9名
6月末	・「点検シート」の分析結果と対応策の検討結果を全自主防災組織へ送付(90か所)	12,600円	9名
5月～7月	・研修会/説明会用のコンパクトマニュアルの作成	32,000円 (90,000円)	9名
7月中	・対応策についての外部有識者、関係団体からの意見聴取	40,000円	9名
7月～8月	・自主防災組織(10回)関係団体(5回)の現地訪問ヒアリング	30,000円	9名
9月～31/3月	・防災マニュアルの研修会、説明会の開催(5回)	29,000円	9名
	・6種類のわかりやすい防災マニュアル送付(50か所)	(180,000円)	
	経費 小計	239,900円	
	()内小計は、提案者の無償労働力	(540,000円)	

企画提案型協働事業 自主防災組織運営の知識の啓発・普及事業
平成29年度最終審査 委員会総合意見

- 1 地域と行政の課題を的確にとらえた、市との協働にふさわしい企画提案として評価します。啓発活動の具体的な成果に期待します。

各委員の参考意見（ふせんの転載）

市との協働にふさわしい事業

- ・社会的ニーズが高い事業である。
- ・狙いは、市の方針と合致している。具体的な活動の成果を期待します。
- ・市と団体のタイアップがよくできていると思います。
- ・自主防災組織の未設置地域の原因分析と対応についても市と協力して考えていって頂きたい。
- ・大災害が起きた時、スムーズに救助できる様、自治会等に啓発、普及していただきたい。市と協働で。

目標達成に向け努力を

- ・今年度最低限できるゴールは何か、そこを明確に1つずつ進めていただきたい。
- ・担当課と協力して来年度の目標達成できることを、期待します。
- ・各団体との連携や啓発活動は大変根気がいることと思いますが、ご健闘を祈ります。
- ・新しい組織なので先細りしないか不安です。